

2025年3月11日

市立吹田市民病院で副耳根治手術をうけられた方およびそのご家族の方へ

研究課題：副耳に対する sutureless 法の有用性についての検討

研究代表者 所属：外科 職名：部長 氏名：田中夏美

連絡先電話番号：06-6387-3311

実務責任者 所属：外科 職名：部長 氏名：田中夏美

連絡先電話番号：06-6387-3311

このたび当院では、上記疾病で入院・手術された患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますのでご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨研究責任者までご連絡をお願いします。

1. 対象となる方

2019年7月1日から2024年8月31日までの間に小児外科で副耳根治手術を受けられた方で、本研究に対して不参加の申し出が無かった方

2. 研究課題名

副耳に対する sutureless 法の有用性についての検討

3. 研究実施医療機関

市立吹田市民病院 外科

4. 本研究の意義、目的、方法

【目的】副耳は耳介やその周辺に発生する耳介組織と同一の先天性の突起で、発生頻度は出生1,000に対し約15の割合と報告され日常診療でよく遭遇する。単発例が多いが、多発例や両側例もある。機能的な問題はないが、顔面の目立つ位置にあるため治療は整容面の改善目的に行われる。基部が細く軟骨成分を含まない場合は結紮のみで壊死して脱落するが、軟骨成分を含んでいることが多くその場合は手術の適応となる。手術は1歳以上になってから全身麻酔下に行われることが多い。通常は副耳の基部を縦方向に紡錘状切開して軟骨を含めて副耳を切除したあとに皮下を埋没縫合する。ほとんどの

症例で創痕は目立たなくなるが、副耳の大きさに比して長い創痕になったり、皮膚割線と直交する創のため創に緊張がかかって肥厚性瘢痕になる場合がある。我々は創部に緊張がかからないように副耳の皮膚で皮弁を作成して真皮縫合を行わずステリstriップとダーマボンドで閉創する sutureless 法を考案した。紡錘状切開と比較検討して手術手技の工夫について報告する。

【方法】2019年7月から2024年8月までに手術を施行した副耳症例のうち、紡錘状切開の7例（紡錘状切開群）と Sutureless 法の4例（Sutureless 群）を対象として手術時年齢、性別、左右、発生数、病変の部位、手術時間、出血量、合併症、整容性について後方視的に検討した。整容性は術前術後の写真を用いて当院外科医15名が10段階で評価した。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究代表者 所属：外科 職名：部長 氏名：田中夏美

連絡先電話番号：06-6387-3311

実務責任者 所属：外科 職名：部長 氏名：田中夏美

連絡先電話番号：06-6387-3311